



3次元ホログラムによる疑似対面型コミュニケーション

空間共有式 3次元遠隔コミュニケーション

背景・目的

- デジタルトランスフォーメーション(DX)の推進により、テレワークやWEB会議が一般的となり、コミュニケーション環境もストレスが少なく、親密感のある空間が期待されてきています。
- 同時に、デジタル化、AI、通信技術等の進歩とともに、自分のいる空間と遠方の空間をリアルタイムで融合させることも可能となってきました。
- そこで、3次元ホログラムによる新たな遠隔コミュニケーションシステムを実現しました。

MR (Mixed Reality) : 複合現実
現実空間と仮想空間を混合し、現実のモノと仮想的なモノがリアルタイムで影響しあう新たな空間を構築する技術。



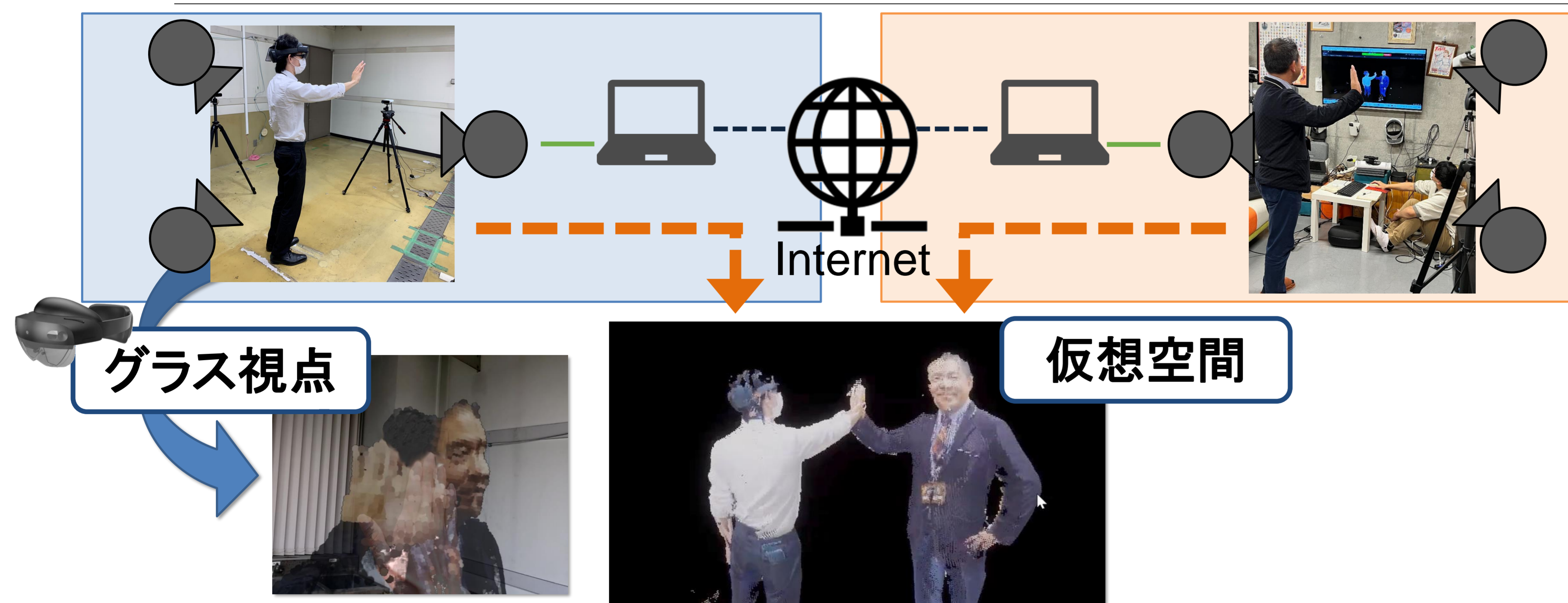
Microsoft HoloLens2

特長

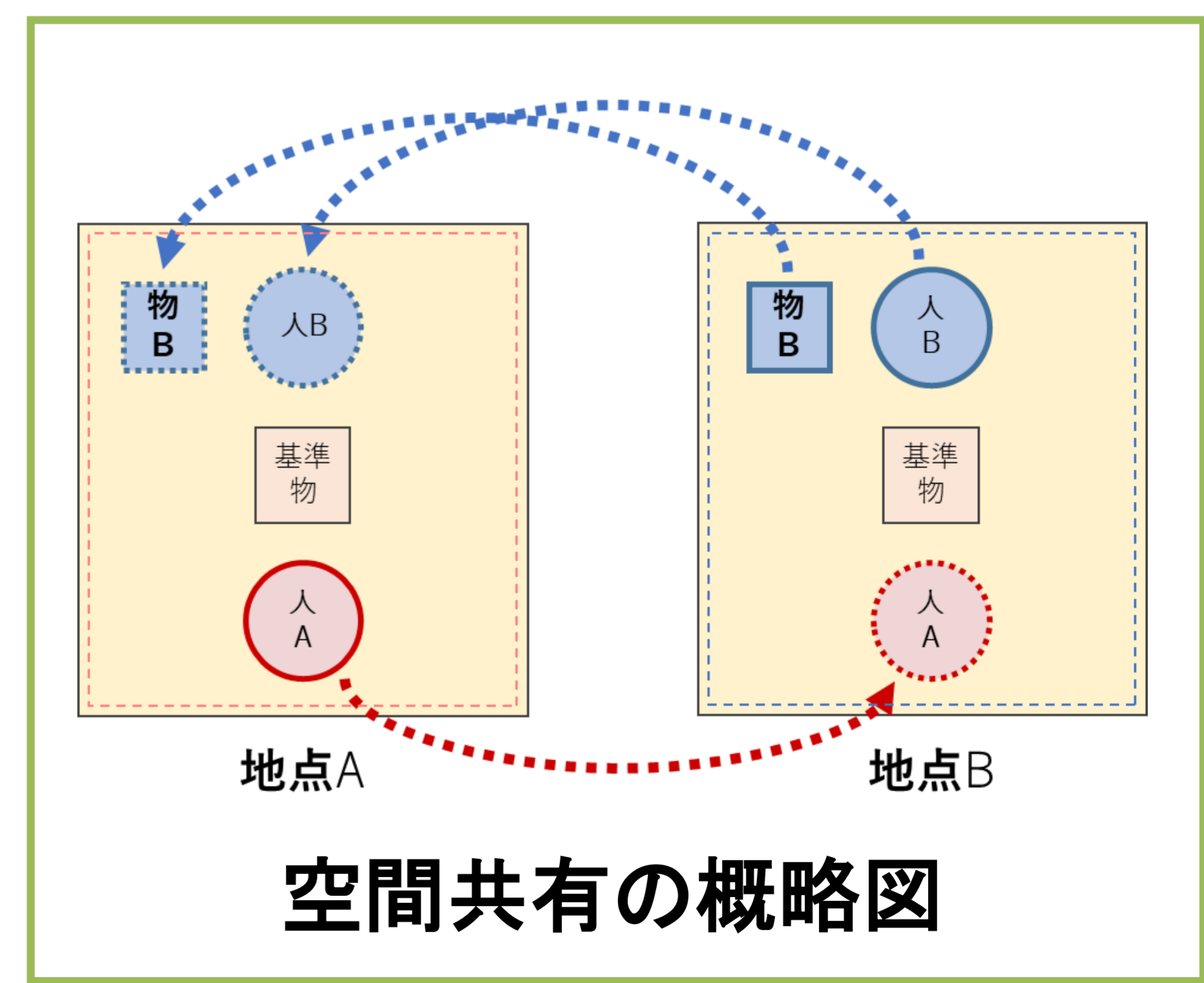
- 3次元で実際に対面しているようにコミュニケーションが可能
- 相手との位置関係を共有し、各種操作指示などが可能
- 人だけでなく、物も映すことで指差し等の直感的な説明が可能
- 空間そのものを保存し、過去の再現が可能

用途

- 製造現場等における新たなコミュニケーション手段の実現
- リモートによる実作業現場の対面作業支援の実現
- よりリアルなメタバース空間の実現



遠隔の相手と対面しているような体験ができる！



空間共有の概略図

開発者の ひとこと

頻繁に行うようになったWeb会議等におけるコミュニケーションに距離感を感じていました。それなら、リモートでも実際に会えるような新しいコミュニケーションの場を作りたいという想いで研究してます。今後も、人と人とを繋ぐようなテーマについて研究していきたいと考えています。